

県芸術祭で堂々の披露 宮内の宝財踊り



県芸術祭の開幕行事の一環。大勢の観客の前で、日頃の練習の成果を見事に披露しました

9月3日に相馬市民会館で開幕した「第56回福島県芸術祭」。今年のテーマ「生きる力 文化の力は 相双から」に合わせて、オープニングステージに、相双地方の文化芸術団体9組が出演しました。その一つとしてステージに立ったのが、「宮内宝財踊り勇姿の会（三瓶重子代表）」。

全身を使った迫力ある動きや、ユーモラスな演技で、観客の大きな拍手を集めました。この芸術祭は、県内の芸術文化振興を目的とするもので、98件の主催行事・参加行事が開かれました。



めおと楽団ジキジキ



飯館産イチゴを使ったフレーバードティー（紅茶）とケーキと音楽を味わうティーパーティです

笑って歌っておしゃべりも 「お笑い！歌声喫茶」

9月7日、交流センター「ふれ愛館」で、自主文化事業いいたてティーパーティー「お笑い！歌声喫茶」が開かれました。第1部では、紅茶とケーキを味わいながら、音楽漫才ユニット「めおと楽団ジキジキ」の爆笑ライブを観賞。幕間には自由におしゃべりを楽しみ、第2部が「歌声喫茶」です。ジキジキの生演奏に合わせて皆で歌う「知床旅情」「高校3年生」「赤とんぼ」…。歌を重ねるほどに会場はいい雰囲気。「懐かしいね」「やっぱり歌はいいね」と、皆の表情もほころんでいました。

感謝と敬意をこめて いいたてホームの敬老会



色鮮やかな着物姿で情感たっぷりの舞踊を見せる「藤華新流」のステージ。会場を盛り上げました

9月18日、特別養護老人ホーム「いいたてホーム」で、敬老会が開かれました。会場のホールには紅白の幕が張られ、白いクロスを引いたテーブルには優しい花々が飾られました。会では、菅野理事長があいさつし、歌手の藤田征人さん、舞踊の「藤華新流」の皆さんや職員たちが、次々に歌や踊りを披露して、入居者を楽しませました。お昼も、ちらし寿司や天ぷら、オードブルの盛り合わせなどとても華やかな献立。敬老の日に合わせて訪れた家族も一緒に、入居者の長寿を祝いました。

宝くじ事業を活用して 行政区の活動をサポート

大久保・外内行政区（長正増夫区長）が、「宝くじ助成事業」の「一般コミュニティ助成事業」を活用して、ノートパソコン4台とプリンター1台を購入しました。購入した機器は、7月、区の施設内に設置され、早速、活用が始まっています。

離ればなれに暮らす区民と連携して、さまざまな活動を進めている現在、同区では、区の広報紙や記録誌を制作したり、お知らせや活動報告を配布したりして、情報共有に力を入れており、機器の導入による活動の充実が期待されます。



コミュニティ
助成事業とは

一般財団法人自治総合センターが、宝くじの社会貢献広報事業として実施しています。集会施設やコミュニティ活動備品の整備、安全な地域づくりと共生のまちづくり、活力ある商店街づくりや地域の国際化の推進及び地域文化への支援等に対して助成を行い、地域のコミュニティ活動の充実・強化を図り、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与しています。

やまゆり保育所で わくわく楽しい夏祭り

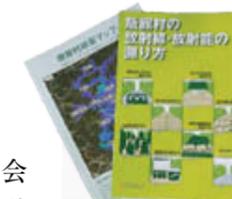
8月25日、やまゆり保育所で、夏祭りが開かれました。少し明かりを落としたホールに、魚釣りやモグラたたきなどの縁日コーナーが準備され、愛らしい浴衣姿・甚平姿の子どもたちが登場。子どもたちは目をキラキラさせて、保護者と各コーナーをめぐる、おやつにはかき氷、昼食には唐揚げや焼きそばなどを味わいました。来年度から、村内の新しい施設で「認定こども園」がスタートするため、保育所としては最後の夏祭り。行く夏を惜しむように、にぎやかな笑い声が響いていました。



縁日コーナーの工夫いっぱいのアイテムや祭りを盛り上げる装飾などは全て先生方の手作りです

ふくしま再生の会 活動の足跡を報告しました

8月26日、認定NPO法人「ふくしま再生の会（田尾陽一理事長）」が、交流センター「ふれ愛館」で、今年の報告会を開きました。同会は、震災が起きた平成23年に、専門家とボランティア、そして村民が参加して発足。村の暮らしやなりわいの再生に向け協働しています。この日は、空間線量、土壌放射能、山野草・樹木の放射能、試験栽培した農作物の放射能などについて、村民と協働で測定するデータを中心に報告。また長期にわたる活動も紹介し、参加者と交流を深めました。



測定値をまとめた資料



会場には、村民や村の職員の姿も。意見交換や情報共有も行われました。右端が田尾理事長